

日記

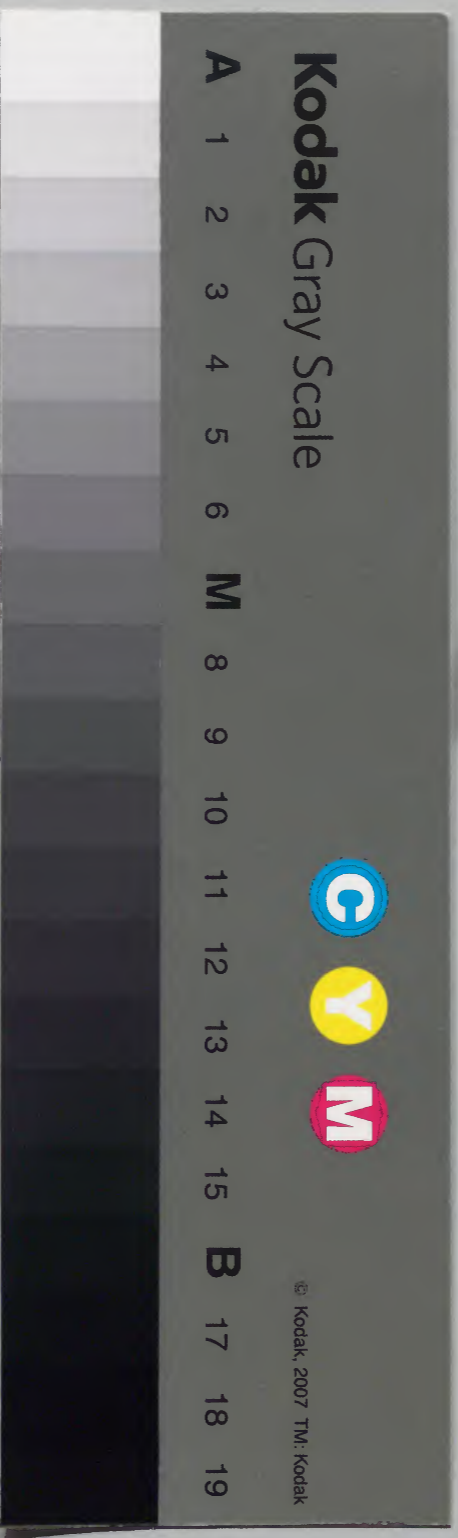
自寬永三年九月
至今年十二月

六

內閣文庫	和書類	三三六〇	一三	一五〇函
架	冊	號	冊	架

內閣文庫	
番號	和 32660
冊數	13 (7)
函號	150 17

共十三



同148

日記

寛永三年九月
同前 十一日 日記
一冊

寛永三年

九月八日

行幸才三日 小酒

朝御膳御内より後

大相國より御進物兼陳列并 備の御所

東南の御所原より

一 御腹百願 長楯十に是を入縁小五長楯内外梨地有後兼令具令腹を用ル棒又同

一 黄令式子取巻 二ッ小是を居長楯の亦並有

一 緞綾子百巻 卷二ッ是を居黄令と有物類

一 伽羅十行 白根の箱二ッ是を令卷上居上櫃の表有



一 麝香五分 白根の末を可小匙を入伽羅を煮ふる

一 蜜十斤 白根の末を可小匙を入上櫃の下の空を

刻限小玉て

之主 出清御所西の上櫃

大相國底の間より 出清御所方兼金作上櫃小玉て

上櫃の際小玉て 清一礼終り 御退出

之主 入清

一 同日 大相國より

但御内々

一 白根 二万支 一 御服

三十願

中宮^は執せし御進物

一 沉香 七十斤

一 伽羅

五分

一 花線絹 五十卷

同日 大相國より

女院^は執せし御進物

但御内々

一 白根 二万支

一 御服

三十願

一 沉香 七十斤

一 伽羅

五分

一 花線絹 五十卷

同日 大相國より

女一の宮^は執せし御進物

但御内々

一 白根 三万支

一 御服

二十願

一 雛の御道具 一 傀儡の御籠

同日 大相圖より 女二礼宮杖せし御進物

但御肉々

一 白根 二子取 一 御夜 二十願

一 雛の御道具 一 傀儡の御籠

殿 御籠 但敷初系 女院御隨從御儀

多敷小依く縁なきく紅繩を布杖以下

御座の案にに力を系 敷儀敷別あり

下御肉々小控く 御籠を杖せし敷杖の

孫意 骨毛小及く 和歌の御舎指緒の

御新踏石間の圍を除去し東南より御座を御

焼卷三石庭より 御座を純細縁御座後

主上御座 東西 冬は夏より藤縁

左 疔

大相圖 御座衣御杖行桑園織物御杖指菱

関 白 色湯衣色黄紋三浦杜母

二 不 伏見宮色衣色黄紅葉浮織物

大 関 指貫黄葉唐織物紋指丸

内 大 関 二條色衣蒲蘇草織物紋唐紅指貫

新 綱 之 烏 丸

右大臣 紫白衣蒲葵芽紋巻甲

右大臣 九條衣茨織色紋唐花指貫

宰相 柳糸

右大臣

將軍家 巾連衣巾衣紅浮織物巾紋踏躰
巾指貫紫唐織物巾紋丁子の丸

右大臣 一條衣浮織物紋菊袴也浮織物紋唐の丸

一品 八條宮上衣服唐紫紋持美指貫黄
唐織物紋唐の丸

之品 淳正宮衣服唐浮織物紋紅葉散袴
唐織物紋与

前圓白 九條

大納言 尾張大納言 紀伊大納言 後の 中納言 水戸

以下八人 次弟 小总 左大臣 藤原 藤原の因 藤原

御所の前 小总 中將 基音 朝臣 地老 左大臣 持

講所の因 藤原 左大臣 初 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

地老のよ 小总 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

藤原 藤原の因 藤原の前 小总 内大臣 藤原

將軍家 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

主上の御儀 紙七 但一

主上の御儀 紙七 但一

縁へ 退く 其時 圓白 藤原の因 藤原 小总 鳥丸

大納言 藤原の因 藤原 小总 藤原 藤原 藤原 藤原

元のかく披瀝年々

主と 命の後安座し々後名未詳と退公

詠行類遊年

和歌

毛瀟ふー 括やアしと
む魚志久社もけのち
なれせしやかさりー
誰袂ぬ

秋日侍 行幸三條亭同詠

竹葉遊年和歌

大政大臣源秀忠

久きゆけのよん所代
ほくとちきるーり
阿ふふふあうぬ
新事哉

大正源家光

みゆあふらふはる
せりんあふらぬ

流れもけとたぬ〜
松も布

園白左大臣位

より似代か〜
右大臣兼遊

限〜
式部卿

式部卿に親王

い〜
左大臣

左大臣貞清親王

い〜
右大臣

彈正平好仁親王

い〜
右大臣

右大臣友成信房

い〜
右大臣

右大臣藤原忠榮

い〜
右大臣

右大臣藤原康成

い〜
右大臣

右大臣藤原實成

い〜
右大臣

後一位友原定照

先活くなほ勢くそよ東をこふみ流の竹枝あてて
中宮を又承承實際

ふこの林をかひせぬ家の異行ふもたを後れや
権大納言孫承資勝

勢りかうん系のみとせのり東もたをなす竹を
権大納言友原光廣

そ下と流のけふないせり夫いふ試せやとのれ竹
権大納言孫承経元

かたあまのたのめたてのたてぬるん流の異行

権大納言友原公益

りふすの夫おむりて異行のあらはれ物や

権大納言孫承重孝

そねむのたのめたてのたてぬるん流の異行

右近衛大将友原友平

そねむのたのめたてのたてぬるん流の異行

右近衛大将友原忠家

限るは夫の滞代新ふもたを後れや

権大納言源義直

そねむのたのめたてのたてぬるん流の異行

権大納言源頼宣

とくふ福ささうく竹はのさうぬけわふ代めり末
権大納言源忠長

静は風の子美代はるれけりなのさう其行

権大納言源宗季継

さしぬねのまふいふなうりん初は竹のさうけりありあ

権大納言源宗定衛

ふ代はあつたのさういふと其行はる末うけりたやあえ

権中納言源宗実成

絶やさやちとせあつた其行はるいふと其行はる

権中納言源宗光孝

其行はるあつたさうさうさうの初は竹のさうあつた

権中納言源宗共房

いふはるあつたはるいふと其行はるいふと其行はる

中宮権左源通村

いふはるあつたはるいふと其行はるいふと其行はる

権中納言源頼房

あつたはるあつたはるいふと其行はるいふと其行はる

参議源雅朝

あつたはるあつたはるいふと其行はるいふと其行はる

冬後在大赤坂

冬後在大赤坂元

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

正之位

冬後在

中宮亮

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

冬後在

右近侍将友系副長

玉河くみきりにて是行のちを魚ぬき給ふは

右近侍将友系為頼

東より新代はくも業ゆらん河州のちを

藏人頭右近侍将友系元親

新代は業人宿の是行れんをほと美おけく勢えん

右近侍将源親頭

物くみふのちを美おけくこのちを河と給ふ

藏人右近侍将友系基春

美おけんは美おけの行のちを美おけく

右近侍将友系重春

國かみのちを河と給ふは美おけく

少納言源系為通

納ねは河代の侍もくもなは給ふは美おけく

藏人右近侍将友系時長

美おけのちを美おけくは美おけく

藏人右近侍将友系元親

美おけの御ふりもは美おけく

中務少輔安倍泰重

代を河と給ふは美おけく

右道清将友系为尚

色あぬ初の行もあつてまゝにけり清代以来とて

右道清将源言有

清のよき行の園地わけ深しゆきいふは代に

右道清将源系公系

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

信源系系基はく

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

侍従友系忠定

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

信源系系公業

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

神祇伯雅陳

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

信源系系起

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

兼源

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

河門良忠

兼代はなぬ色もまじの族をまじりてけり

学仕

色深くも原竹のよみ成つて君のよもひの枝をえをへん

克 然

まゝなほを夫のふをいれぬ物行はあかたをへん

学 克

ふを何布ふねし〜〜〜秋景竹のよみ成つてあかたをへん

良 純

秋は海はほももて津代を移るがぬぬ代竹のよみ

乃 晃

代〜〜〜か〜〜〜のよもひのよもひのよもひのよもひのよもひ

道 周

葉をせぬ竹のよみ 秋もあつたゆきふもあつたあつた

完 胤

ま〜〜〜か〜〜〜のよもひのよもひのよもひのよもひのよもひ

学 純

ま〜〜〜か〜〜〜のよもひのよもひのよもひのよもひのよもひ

増 孝

ま〜〜〜か〜〜〜のよもひのよもひのよもひのよもひのよもひ

大 信 正

ま〜〜〜か〜〜〜のよもひのよもひのよもひのよもひのよもひ

我言

行末は思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行
常言

流るるを思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行
沙門覚定

悔ふも思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行
寛奥

悔ふも思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行
公悔

悔ふも思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行

東門象空

今も思ふも久し流るるを思ふもいと悔ふも思ふも行

題者 雅胤 漢作 内大臣

漢作 為頼初代 漢製

漢作 関白

同 漢作 日野大納言

漢遊 和歌の漢會終る

漢遊 和歌の漢會終る 東南の漢會と云ふ

漢遊 和歌の漢會終る 漢會を設け漢會の間

御簾の内

大相圖 將軍家御簾右宮務家礼例公

調子 平調

借馬樂 伊弉海 楠子 子 継

百餘年小及以絶去今度別小

初より過中納言李継少〜再興

万歳樂 林歌 殘樂 朗詠 徳气 春平樂 急

夜中樂 殘樂 朗詠 辰 慶徳

簾中

御新化 御簾 借馬樂

関白 簾 右大臣 簾

左大臣 琵琶 彈正宮 簾

御史御所 琵琶 前関白 簾

内大臣 笙 右大臣 笛 借馬樂

右大臣 笛

養子小及を及公の府と云

口过中納言 簾 借馬樂 楠子 朗詠

西園寺家相傳琵琶

右大臣 簾 華樂

急病と云殿上人の御所

雅胤朝臣

孔多井中將信之樂分歌朗詠

康胤朝臣

澄川中將 笛

嗣良朝臣

守倉中將 箏

孝治朝臣

竹内刑部少將 箏

基音朝臣

園頭中將 箏

信孝

桓七少將 笛 朗詠

言總

山科内藏頭 箏

高有

後路少將 朗詠

公恒

四过侍從 箏

澄教

掃司侍從 笛

忠定

清水谷侍從 箏

通式

久世侍從 箏

基定

持明院侍從 朗詠

公根

小倉侍從 琵琶

五村

唐橋氏部補 箏

公久

元三侍從 箏

後上人の座此末に木板と構へ糸疋と表、
地との樂人の座と成

苗 大神系法 大神系福

草 柏友澄 柏迪長 秦原乾

華樂 秦蕭貞 安儀秀勝 柏迫元

柏迫慶 信馬樂

鞞鼓 秦昌忠 八鼓 柏迫元

正鼓 秦兼秋

松明

之後二人下月二人清就二人 軍灯

清遊の間由天奉早白右退かき手後

清内ふりなり 清儀宴遊曉文小乃了

九日 身目目 今日 儀樂

敵降天原間上櫃の下れり又清上原と意敷

清上原の際中小清庭の事を及清苗を後

之上此清庭と及左小清庭の事を及清苗を後

中宮の清庭と及右小清庭の事を及清苗を後

女院乃清庭と及儲乃清苗大原乃の縁也又

玉と屏風とて少れを念ひ

大相國 將軍家の 清庭と及其次小清庭を

念も宮持が先宮の大原諸公家諸門の縁也又

後河尾後紀伊大納言清同庭此方の延後發布

後蓋儀樂 清儀窓の及不_進 世外公儀上人

各縁の同公と兼ふ縁と及廊下とて大名以下

諸吏元の序を以て後より間の縁を以て諸司文司院司
北面の法を更坊を以て序を以て後より縁を以て諸司文司院司
菊枝白浪の玉桶可紋東水長安寺守
可紋西水長安寺守
大相國より御進物
獻感殊不甚し精樂の内御膳敷及全浪其物
以下陳列但し御内之の役女中以外は乞と不叙

精樂七番

鈴廻

難波 親世変

田村

金春変

源氏供奉七変

道成寺

親世変

熊坂七変

三福

金春変

櫻々 親世変

精樂之番より公家武家各所より召して進物
一二之法皆令浪を用ゆ其後見物は序不あり
令浪の是法相出 酒と切ふ事 教返精樂後
右進物の用意ありし事 御沉醉再之沙羅
乞小依り宗福の社進は昔日重陽に依り
大相國 將軍家 侍亦あり
天皇と法あり
當院御内より進物
後より院辰筆の巻一巻と状せし事

十日身自使晴 朝七六之御膳所引替の御膳
御内々後

大相圖 將軍家御相律之

正刻

女院 還御供奉の公女上人緒役者兼女中の
長柄杓典包典出車以下 御掌の時のは但一
出車ハ二兩也

午刻殿之 敷儀先日霧霞變遷を公分明に
きふ依る再ハ其後及ハし得る

下御

東の別儲の

御所東南小御所と密れ階の間の御所
御所のをを及御所を設け
之上出御

將軍家御米市一日晴 但將軍の男
御家と御紋 東南の

爰居の内 御所其御所馬十丈居才小庭上小川

川に随男に人

中山勘解由

森川令右衛門

清水権左衛門

天野作左衛門

法友役人

右馬寮 松久平指 袍 阙 腰 帯 段
式 表 衣 懐 固 刺 馬 帽子

合人六十人内十八人馬帽子 赤袍 白履

御馬川 平白 御中 本道凡新集府梨夜府経の
箱文黄舎のチ枝ニ舟

中院 中納言 一 東帯 南の屏外ニ 旗ニ 是を披露

將軍 家 退出 一 旗

大相國 出 御 一 東帯

御馬 交 走 庭 上 小引 旦 次 役 者 同 和

以 成 朗 詠 万 葉 集 一の巻 終の巻 子昂 潤 明 の 号 梨 夜
定 家 集 并 後 乃

箱 二 小 入 籠 小 虎 屏 外 小 旗 一 是 披 玉 旗 也

御 前 裏 の 間 小 向

之 上 上 檀 左 殿 中 宮 東 西 門 正 満 々

大 相 國 南 面 上 檀 下 乃 其 次

將 軍 家 南 面 右 殿 女 院 の 御 前 御 旗 多 旗 等 々

二 子 早 朝 退 御 故 世 死 明 々

振 宮 出 御 中 檀 後 河 大 納 言 忠 長 南 面

將 軍 家 の 後 乃 下 檀 也

初 秋 御 盡

之 上 御 前 中 宮 御 前

之 上 御 盡

大相國共次

將軍家于次後の大納言 中宮の御直

大相國共次 將軍家于次後の大納言二執回前

三執

之上御前御直之中宮御前御直一

之上御前

大相國御直 天直 大相國御時

天直御直收る共次

將軍家 天直 天直之回前御直收る共次後

大納言忠長 天直 天直回前御直後

中宮御直女中危一沈弟の御直

還幸 風聲を南階小倉御時

大相國 將軍家東の階より 御下を中門より

如方方に 御直は供奉御直の

風聲を御時 御直は 還御直供奉後御直

御直は御直

中宮乃法供奉家の公は又人

尾張大納言 紀伊大納言 加賀中納言

清原大納言 備前守相

是を相副一は新但騎馬末等一日晴 衣紋御直の
日と晴

供奉こ下

御幸の時此上

姫君乃御供奉武家の公御之人

後内大納言

水戸中納言

仙臺中納言

越前宰相

會津宰相

是を相副する儀式同前出車四支也

寛永三寅年九月

御幸の目

之と御膳共令白浪製調時の中膳御膳

大小

六回白浪を以是を御膳なり 御膳碗 太極蓋あり 七回 黄合を以是を

御膳 大小十六回 同製

御膳の御膳

御膳盤二三回 黄合を以是を製成 御食籠 御膳沙次一回 同製

御膳二双御匙 大小二回 同製 御膳蓋の巻一回 同製 白浪を以是を

御膳蓋 大小二回 黄合を以是を製成 御膳子一枚 黄合を以是を製成 御膳蓋有

一對 同 御間襦 二箇 三重の御重箱 一組 白紙にて

御神奈 二箇 御湯次蓋 有一箇 其金にて 御金色

蓋 二箇 白紙にて 御梶子蓋 二箇 同 御菓子盆 白紙にて

二箇 其金にて 御衣櫛 二箇 白紙にて 御拭子 二箇 同

御菓子 一箇 同 御風灯 其金にて 御水指蓋 有一箇 同

御金盃 一箇 同 御水滴 一箇 同 御柄杓 二箇 同

御茶入 一箇 同 御中次 一箇 同 御小壺 一箇 同

御巻天目 一組 同 御茶碗 一箇 同 御巻 一箇 白紙にて

御鏡臺 一箇 同 御椀角皿 白紙にて 御耳皿 二箇

御波合 一箇 同 御菫黒入 一箇 同 御文信子 二箇 同

御持扇 一柄 御茶碗 一箇 同 御椀次 一箇 同 御巻 一箇 同

御香炉箱 一箇 同 御香合 一箇 同 御香炉 内一箇

二箇 同 御香合 一箇 同 御焼物入 一箇 同

御焼返入 一箇 同 御香著 一箇 同 御推浪杖 一箇 同

中宮の御道具

御茶碗 大小蓋 七箇 外白紙内其金にて 御皿 六箇 同

御熱盃 三箇 白紙にて 御食籠 白紙にて 一箇 御湯

蓋 一箇 御間湯蓋 二箇 同 三重の御重箱 一組 同

御神奈 二箇 同 御湯次蓋 一箇 同 御金色蓋 一箇

二箇 同 御梶子蓋 二箇 同 御菓子盆 大小 二箇 同

御衣櫛二箇 同御手拭紙二箇 同御墨子一箇 同
御風炉一箇 同御令襪一箇 同御水指蓋一箇
一箇 同御水滴一箇 同御柄抄立一箇 同御蓋金
一箇 同御卷天目一箇 同御奉金一箇 同御申次
一箇 同御院卷一箇 同御一箇 カミ 一箇 同御院一箇 同
御白粉箱二箇 同御油桶一箇 同御信子一箇 同
御掃帚一箇 同御白粉洋の御音一箇 同
御振笠一箇 同御沉笠 本庄具 一箇 同御墨盒一箇
一箇 同御墨盒一箇 同御墨盒一箇 同御墨盒一箇
一箇 同御粉箱一箇 同御碗付御墨一箇 同御墨碗 水入

二箇 同御椀角盥二箇 同御年盥二箇 同御便所
御小道具一箇 同御香合一箇 同御香瓶 蓋有 一箇
御香合 必入 一箇 同御燒物入事二箇 同御香著
一箇 御推洗杖一箇 同御燒通分蓋 蓋有 一箇 同
女院御道具

御奉統 大小蓋有 七箇 外白銀内蓋有 御盥 本庄具 一箇 同御盥 本庄具 一箇
三三 二箇 白銀内蓋有 御食籠 本庄具 一箇 同御箸 本庄具 二箇 同御匙 本庄具 一箇
二箇 同御唐盛の蓋二箇 同御蓋奈二箇 同御法洲子 本庄具 一箇
御湯蓋 本庄具 一箇 同御湯蓋 本庄具 一箇 同御湯蓋 本庄具 一箇 同御湯蓋 本庄具 一箇
一組 同御湯奈二箇 同御湯次 本庄具 一箇 同御湯 本庄具 一箇

一箇月沙籠子蓋有一箇月衣摺一箇月沙籠子蓋二箇日
沙籠子一箇月沙籠子一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋

沙籠子一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋

女一官の沙籠子
沙籠子一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋
一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋一箇月沙籠子蓋

一組月山草子蓋二個月山花子蓋一雙月山桐一箇月
 山手紙二箇月山龍天目一組月山龍卷一組
 山洗一組月山匣一組月山白粉箱一箇月
 山白粉の香合掛前一箇月山紙筒一箇月山油桶
 一箇月山粉筒水入一雙月山茶碗水入
 二箇月山椀角盥一組月山掃帚一箇月山耳盥
 一箇月山沉箱水入一箇月山視箱水入一箇月
 山香盆一箇月山香炉一箇月山香合一箇月
 山燒物入事一箇月山香着灰推限一箇月山燒返
 入の蓋蓋一箇月

女二の宮御道具

御茶碗茶蓋七箇外白限内茶合を
外白限内茶合を
外白限内茶合を 山皿茶合一箇月山無蓋二三
 二箇月山食籠共一箇月山着二一箇月山靴茶二箇月
 山康盛の巻一箇月山道以二箇月山靴子一一箇月
 山湯蓋有一雙月山間湯蓋有一箇月山三重北
 山重箱一一組月山巾二二箇月山湯次蓋二箇月
 山金色蓋有一箇月山菓子盒二二箇月山龍天目
 一組月

將軍家御禮具

御茶碗 大小蓋各

七箇

白浪三子

御皿 大小

十六箇

御盃盤

一三三箇

御食籠

法供

一箇

御箸 二双

御匙 二箇

御湯盞 一雙

御盃 二箇

御菓子盒 二箇

御湯天目

九月

行幸之日

將軍家より諸家へ賜り物目録

一 御衣 一腰 白浪三子

綿衣二十領 花糸絹縞子白浪以下

圓白

一 御衣 一腰 白浪三子 綿衣二十領 右 大后

一 圓形 八條宮 一箇 伏見宮

一 圓形 彈正宮 一箇 高野宮 大后

一 圓形 九條 一箇 二條

一 御方一腰白浪二子由綿衣十願 有司左右大將
 一 右同以 九條右大將
 一 白浪子由 綿衣十願 仁和寺門以
 一 右同以 竹内門以 一同 大覚寺門以
 一同 沙汰院門以 一同 一宗院門以
 一同 船道院門以 一同 聖護院門以
 一同 照言院門以 一同 梶井門以
 一同 大系院門以 一同 隆仁院門以
 一同 吉連院門以 一同 三宅院門以
 一 白浪二子由綿衣十願 實相院門以

一 右同以 象法師門以 一同 初修寺門以
 一同 毘沙門堂門以
 一 御方一腰白浪子由綿衣十願 西園寺前右大將
 一 右同以 光心院右大將 一同 神法橋大納言
 一同 三條大納言 一同 日野大納言
 一 御方一腰白浪二子由綿衣十願 正親所藤中納言
 一 右同以 比連中納言 一同 中道門中納言
 一同 河津中納言 一同 清閑寺中納言
 一 御方一腰白浪二子由綿衣十願 日北中納言
 一 御方一腰白浪二子由綿衣十願 中院中納言

一 白浪三百支 绵衣十頌 白川二位

一 御方一腰 白浪三百支 绵衣十頌 廣橋宰相

一 白浪三百支 绵衣十頌 花山院宰相

一 御方一腰 白浪三百支 绵衣十頌 柳原宰相

一 白浪三百支 绵衣十頌 西園寺宰相

一 白浪三百支 绵衣十頌 水无瀬宰相

一 右同以 又过右衣波替 一同 西園院宰相

一 同 西園院右衣波替 一同 持法親王中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 鳥丸宰相

一 御方一腰 白浪三百支 绵衣十頌 友右造 佐

一 白浪五百支 绵衣十頌 虎守井中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 滋井井中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 堀川中將

一 右同以 水之瀬中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 弓倉中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 冷泉中將

一 白浪三百支 绵衣十頌 德大寺中將

一 右同以 中山中將 一同 竹内式部卿

一 白浪三百支 绵衣十頌 藤谷中將

一 右同以 小畠中將

一 白浪三百支 绵衣十願 園从中将
 一 白浪二百支 绵衣五願 東坊城少納云
 一 白浪六百支 绵衣六願 久我中将
 一 白浪二百支 绵衣六願 庭田少将
 一 右同以 平松侍从 一 同 云除少納云
 一 白浪二百支 绵衣十願 大坂正門侍从
 一 白浪六百支 绵衣十願 三條侍从
 一 白浪二百支 绵衣六願 竹屋
 一 白浪六百支 绵衣十願 其云路寺
 一 白浪六百支 绵衣十願 初修寺

一 右同以 云正門中務
 一 白浪二百支 绵衣六願 冷泉少将
 一 右同以 樋口少将 一 同 西坊城少納云
 一 同 小坊城少納 一 同 就尾侍从
 一 同 川路侍从 一 同 掃司侍从
 一 同 綾小路少将
 一 白浪三百支 绵衣六願 清閑寺鷹侍
 一 白浪六百支 绵衣十願 中院侍从
 一 白浪二百支 绵衣六願 小坊城少将
 一 白浪六百支 绵衣十願 正科少将

一 白浪二百支 绵衣五願 松木信流
 一 右同 四过信流 一因 日野西右少将
 一 白浪二百支 绵衣十願 六條少将
 一 右同 已条信流
 一 白浪二百支 绵衣六願 西洞院信流
 一 右同 東園信流 一因 難波信流
 一 同 万里山遊信流 一因 久世少将
 一 白浪二百支 绵衣六願 死多井信流
 一 白浪二百支 绵衣十願 舟橋式部信流
 一 白浪二百支 绵衣五願 持明院信流

一 右同 中道川信流
 一 白浪二百支 绵衣五願 廣揚信流
 一 白浪二百支 绵衣十願 清水谷信流
 一 白浪二百支 绵衣五願 日野信流
 一 白浪二百支 绵衣五願 中川信流
 一 右同 正親町信流 一因 子倉信流
 一 同 小倉信流 一因 屯園信流
 一 同 冲落信流 一因 橋本信流
 一 同 裏过信流 一因 藤信流
 一 同 河地信流 一因 伯信流

一 同 岩倉侍從 一 同 高橋氏新右
 一 同 正親町左衛門 一 同 堀川侍從
 一 同 西大路侍從 一 同 七條侍從
 一 同 小見 一 同 万丸見七合内
 一 同 左京左衛門 一 同 兵部大納言
 一 同 治部大納言 一 同 勘解由次官
 一 同 大膳左衛門 一 同 彈正次官
 一 白浪二百石 綿衣十願 一 同 岩倉木工
 一 白浪二百石 綿衣十願 一 同 右京左衛門
 一 右内侍 極 一 同 指次藏人

一 白浪五百石 綿衣十願 一 同 梅小路
 一 右内侍 宣旨 一 同 式部
 一 右内侍 内侍 角典侍 一 同 石部門侍
 一 白浪三百石 綿衣十願 一 同 内侍中将
 一 右内侍 内侍 左京 一 同 大式部
 一 白浪百石 綿衣十願 一 同 宋女
 中宮女侍方
 一 白浪百石 綿衣十願 一 同 持大納言
 一 右内侍 新大納言 一 同 沙掃司
 一 同 大納言典侍 一 同 新典侍

一 同 長 揚

一 白浪之百五 綿衣三願

一 右同以 新肉侍 一 同

一 同 伊勢 一 同

一 白浪之百五 綿衣三願

一 右同以 伊勢 一 同

一 同 下野

一 白浪百五 綿衣三願

一 右同以

一 白浪百五 馬場式部 一 同

内侍至下内 肉侍

同 宮内

同 見七人

同 周防

同 幡 广

未下

妻及 阿南

妻及 方

小室之及

一 同 鴨之膳 一 同 羽黒内記

一 同 是侍堂外

柿小中女中方

一 白浪之百五 綿衣三願

一 右同以

一 白浪百五 綿衣三願

一 右同以 侍奏内 山形右邊尉 一 同

一 白浪百五 羽黒之膳 一 同 大西采女

一 同 小野澤心 一 同 井関刑部

一 同 吉田刑部 一 同 宮野之内

侍奏内 大典侍

侍奏内 木村誠采女

侍奏内 是本采女

一 同 多度路邊史一詞
 一 同 大漢為史一詞
 一 同 速水義孝一詞
 一 同 潤子敏孝一詞
 一 同 潤子自悟一詞
 一 同 潤子嘉善一詞
 一 同 土山抄曹一詞
 一 同 村上備前守一詞
 一 白浪二百五 綿衣公願
 一 右同形
 一 同 松平氏新入浦
 一 同 松波庄九郎
 一 同 玄入河内守
 一 同 土山後河守
 一 同 土山將監
 一 同 潤子抄曹
 一 同 之上抄曹
 一 同 潤子抄曹
 一 同 清藏人
 一 同 新務人

一 白浪百五 大外記一詞
 一 同 出納藏痛一詞
 一 同 枕田利家一詞
 一 同 武田之康一詞
 一 同 速見長守一詞
 一 白浪二百五 綿衣公願
 一 同 長門一詞
 一 同 但馬一詞
 一 同 右見一詞
 一 同 薩摩一詞
 一 同 宿務
 一 同 出納豊後守
 一 同 幸徳井信陽
 一 同 河陽佐渡守
 一 同 世須右馬尉
 一 同 沖下豊前
 一 同 肥後
 一 同 信濃
 一 同 目白
 一 同 出羽
 長使所下五

一 同 中名便下至 内 海 一 同

一 白浪二百支 绵衣十頤

一 右同形 阿 子 一 同

一 白浪二百支 绵衣四頤

一 右同形 汗 一 同

一 白浪百支 绵衣二頤

一 右同形 非官局 牧 一 同

一 同 中福次 乳 浚 一 同

一 同 山 一 同

一 白浪百支 绵衣二頤

日 河 内

日 非官局 申 務 世信並

日 今

日 糸

日 糸

日 糸

日 糸

日 糸

日 糸

一 右同形

女院女中方

一 白浪二百支 绵衣十頤

一 右同形 绵小法 一 同

一 同 中納云

一 白浪二百支 绵衣十頤

一 右同形

一 白浪二百支 绵衣十頤

一 白浪二百支 绵衣十頤

一 右同形 漢波 一 同

岩

上福分

一 徒

小 督

中福分

按 糸 使

少 將

中福分

外 山

糸

一 同 豊 後 一 同 能 也
 一 同 右 近 一 同 相 摸
 一 同 備 後 一 同 和 泉
 一 同 珠 藏 一 同 玉
 一 同 越 前 一 同 夏
 一 白根 言 友 内侍 五
 一 綿衣 六 願 見 一 人
 一 白根 又 子 五 禁 中
 一 右 同 郎 中 官 中 所 女 中
 一 右 同 郎 女 院 中 所 中 中

寛永之寅年 自春正月

九月に...

大御所の御方清遠例花急の中...

重剛 是年内膳に依り 洛小池末七...

後之殿と 出所供奉の輩...

奉之身也紙

命せし新二條の御小

渡清

公小 御對顔

大御所御方不豫告来り御日稻葉丹後...

將軍家より 御使として 沙邊例と申事せ給ふ
將軍家既より 御駕を致せられ給ふ所
大御是列の法方今月十日 御逝去の由に
告束侍小依く

將軍家江戸 還中の事物々々 法延行を先
三浦志麻も三次と 御使として江戸小依に
三皇とく洛を出させ給ふ 御旅籠を
け知ふおわく 京流石下 勅書の上小依
此もて 京師より三日 御逝去の由に依て
其旨 旅籠を致す 御用是らと申事

思召別とらふ小依也

是より先江戸 御使駕の前 念三
後 浪平杖を供奉の上小依

後河内相忠長々

大御是列の法方 御逝去の由を
江戸小依致せ給ふ

大御是列の法方 御逝去の由を
色ふおわく 御使
四月八日夜小入成の月刻

大御是列の法方 御逝去の由を
入御是より

御位牌を方丈小安並一
寺僧讀經を日と給ふ

御位牌を方丈小安並一
寺僧讀經を日と給ふ

二十日當日施儀見は十九日當日御宇多旨付杖
御宇讀經法同高日施儀見若殿小御大儀

御葬賜の周意のふま依り十月十八日以前
御葬賜との名ハ別御法事執行也

同十九日道三を濫京御宇在り候ふと云々

大御老御法病癒意先の吉多し依り及之病中
形もと云々

公の命とも云々京都成致して江戸赴く途中
相判箱根小御宇車以事成

將軍家法湯より江戸小還御宇松平誠輝

定儀を 石一にて白浪二百貫目と稱する定儀

法錦として江刺水江の近御儀也

十月三日相馬義胤洋安河盛胤男位下小叙長用

任は是日本若御正成正水正胤位下叙

肥前守小任也 後水正政 是日内及正重正重

位下小叙一外記小任也

同日

中宮の御法創法を定する是ハ其後

御入洛の時

中宮の御法創法 御方に存せし依り也

條一

一 門出入の事

男女共に酉の刻の前を可限差言ふ事
子判りの事も他は魚の事

一 女上下出入の事

権大納言右邊女主人の事判ふ天地豊前守
大橋越後守の事判めく出入り付り

一 洛中に親と身とを女の日帰りといふ事
正久月出入り事

一 女上下にござ次相好し付い善悪を先分け

好いあり身とを出入事

一 寺社系詣かゝる事

一 権大納言方門経法は其外公家の面と并
緒大名礼の事

一 女中おかつれ方へ権大納言新大納言主人可
おかつれ周防さきうはふて任事

一 寺社の事かゝる

林小中の御他法ふまの事一はし周防さきうは
次身の時事

一 くらゝの事かゝる 肉の事は豊前越後守

一 河内あきとく系紙(きり事)

一 一つの方よりも使われありて女出出して不付付い
し、いづれかより右三人の出事

一 所合并志きいしく余同女たすもの事

一 用の事本相付(かゝる)に付しといふせんるらふ
定、あつたど色すいし、女、権大納言宿達
紙事

一 抱ひ物又抱の事一切しきいもの事いし志せん

一 林宗仲御らんふあつては各あめ事

一 法公家仲男女振旦事女二志んむいしき

但し、いづれかきすいりいものあつて、周防の
さしうふさ紙の

一 志せん不叶用事まにかあつて、ふせんのも
紙後書かきまきいりし事

一 男女をわぬの事一切きすいりいものあつて、
ふりふあつて、周防のあつて相渡は事

一 かくの度さしうもの事、たすこの不入あつて書を
きりしきりしきりし事

一 是れいしきりしきりし事、別紙かきし

一 つね紙くかきしきりしもの事、ふせん志し、おは

の上一ツありて下分事

付かぬめん〜と右五念合二相波事

一と流津きものより持大綱を有魚外黒分治事

おと〜の〜
おと〜の〜
おと〜の〜

右の旨を以て相守に法ふと成る事ハ事書り

此 仰出志之

寛永三年十月三日

同七日俗名務備 年七十九歳

同十八日

大洲養所の 洲築礼壇上寺小持執事

洲築送の場和浅布物といふ事〜 壇上寺より

浅府 洲築送の場和浅布物といふ事〜 行社下る

は左右大行といふ成架難と結ひ内小薦を敷其上小

白布といひて十端垂し小壇上寺より火屋小至て、右の

行社此しと敷布右側の行社左十間小一流え就に此

幡と建て其間毎方幡幅とも此中火屋の敷掛へ

百方に方柱といふ幡難と立て丹を以て是を至内小

薦を敷きて小白絹を以て建て門柱合枕行門

究竟門の内門を右門の名を額小書りて此こととて

一方下備十中えは二方に四十流の幡を多めり各台柱を以て

長き丈知人の赤火龍二重の構へ六十間四方陽雜敷
構へて同じ内小薦を敷き下小練を敷く近江流金門
車沈門業成門の二門を各門の名を額小書きし是を
をる二方小百味を供へて濁り紗毫を垂は火龍内如
構へて法津舎安樂及の二枚額を懸す赤火龍より
紅龍右の方小観音堂利人堂業系頼堂勝庭堂
洪帆堂大進堂の二堂を各額ををる二の具定を垂く
此門内外八の九小懸板二丈九人上より貫延板の五
人柱の丹を以て海益はに垂く法龍門の額三人
守門の金の女を縁の牡丹唐草と急ぐ外を

丹を以て是とぬる二堂九人上より一丈八佛檀の
唐草二丈九寸観音の長八人守額の長を五人四寸
唐草守堂のけし牡丹唐草牡丹唐草二堂陽雑敷
小幡後水川清沙龍長九人作紋沙を以て是の角
隅地掛竹白後小色よの彩色を右の方小合新前を
額と懸幡六流を建てて百味を供へて堂の壁六間板
の間に事一丈七尺八寸并一白六尺五寸并七尺八
寸同紙を以て是を以て天を畫く腰板合蓮毫を
急ぐけし牡丹唐草の縁板を各丹唐草を
唐草を畫く額堂三人の柱六尺八寸牡丹唐草を畫く

大書簿に記す小幡隊子清合親令の簿も色
 公田方々事口尺二寸外形も同じ厚合新田方小
 廣瀬門果遂門玉徳門遂到門のほろを各名所
 類を無さし内は津葉門寂滅門類を清合親と
 卑志前中入波小中入兼て百人白張と志中合親小
 副金益丸尺寸殿中より分取延縁を志中合親と
 彩色地小幡隊子持行長事年之間中合親令係
 を記すは勢國の武士在厨万石に請名家令合親
 有衣袴也
 小間方以祀成深難より外は延縁有衣袴と同一
 一人を志中合親
延縁も志中合親
 諸大名の志中合親

百圓を退くは秋飽を以て是を勢清と幕下
 ら秋飽の以諸家の者相立り是を初月舟の事
 是を唯祀して下知候

御葬送行列

車引上人二人侍二人

存栄

大番将上人二人

志中合親

大番将上人二人

車引上人二人侍二人

春湖

右

多賀角馬 上二人 花鏡 上二人
黒澤李之助 上二人 花鏡 上二人

右

西山右神香 上二人 花鏡 上二人
濱色孫三郎 上二人 花鏡 上二人

右

月天 上二人 未發 二本 上二人 花鏡 二本 上二人

右

日天 上二人 用發 二本 上二人 花鏡 二本 上二人

右

情六流 上二人 彼一 上二人 証一 上二人 禪一 上二人 禪一 上二人

情六流 上二人 彼一 上二人 証一 上二人 禪一 上二人 禪一 上二人

右 上二人 上二人 上二人 上二人 上二人

大番 上二人 上二人

二番

大番 上二人 上二人

右 上二人 上二人

右

之田 上二人 上二人 花鏡 上二人 上二人

右

八木忠之助 上二人 上二人 花鏡 上二人 上二人

隨應寺

右

東坡一本俗人情六流俗人後一雙寺僧二人

右

開卷一本俗人情六流俗人後一雙寺僧二人

右

征可寺僧二人後一雙寺僧二人

左

征可寺僧二人後一雙寺僧二人

右奉引上人一人侍二人沉道
青山小右處
過志玄坊

之書
灑水止人
灑水止人

右奉引上人一人侍一人玩談

松年令處
板橋寺之屋

右

花龍寺上人東坡一本俗人情六流俗人

右

花龍寺上人開卷一本俗人情六流俗人

右

情六流俗人後一雙寺僧二人

左

情六流俗人後一雙寺僧二人

右

鼓可寺僧一人 鐺可寺僧一人

右

鼓可寺僧一人 鐺可寺僧一人

右寺僧一人 僧一人 智

竹月源五郎
小野源十郎

大香炉可上人一人

日青

大香炉可上人一人

右寺僧一人 僧一人 万说

长原昌高
寺僧佐高

右

滴水上人一人 鉢籠各一 未及一本 僧一人

右

滴水上人一人 鉢籠各一 未及一本 僧一人

右

鉢籠二本 僧一人 僧一人 僧一人 僧一人

右

鉢籠二本 僧一人 僧一人 僧一人 僧一人

右

鉢籠二本 僧一人 僧一人 僧一人 僧一人

右

鉢籠二本 僧一人 僧一人 僧一人 僧一人

右 多引上人一人信二人

貞殘

石野六郎重門
綱元信次郎

大青 常法大花 長三寸六分
長二寸五分

右 多引上人一人信二人

元

市島在定
南井長十郎
加原清三郎
後又市郎

右 多引上人一人信二人

大青 灯可上人一人

六書

大青 灯可上人一人

右 多引上人一人信二人

吞礼

寛形之席
横地苦守

右

漂水 上人一人 未及一本 信二人 紗籠二本 信一人

右

漂水 上人一人 用髪一本 信一人

紗籠二本 信一人

右

情 大流 俗人 被一双 信二人 祢可 寺信一人

右

情 大流 俗人 被一双 寺信一人 祢可 寺信一人

右

鼓 可 寺信一人 襦可 寺信一人

右

鼓 可 寺信一人 襦可 寺信一人

右奉引上人一人侍二人

雲 荒川又次郎
茶山源也

七番 須臾續

右奉引上人一人侍二人

長宗 中多右衛門
吉本右衛門

右

大番 燈下 一人 灑水 一人 花籠 一人 上人 一人

左

大番 燈下 一人 灑水 一人 花籠 一人 上人 一人

右

末段 一人 侍人 紗籠 二人 侍 幡 一人 侍人

左

開敷 一人 侍人 紗籠 二人 侍 幡 一人 侍人

右

法 一人 侍人 証 一人 侍人 深 一人 侍人

左

法 二人 侍人 証 一人 侍人 深 一人 侍人

右奉引上人一人侍二人 宗順 中山茂之侍
山田市之侍

大番 燈下 一人 一人

八番

大番 燈下 一人 一人

右奉引上人一人侍二人

天胡

扶山平十郎
法橋長次郎

右

灑水之上二人 瓦籠之上二人 束及一本 倭人

右

灑水之上二人 瓦籠之上二人 用及一本 倭人

右

紗籠二平 倭人 幡 鹿 倭 後 一 双 倭 二 人

右

紗籠二平 倭人 幡 鹿 倭 後 一 双 倭 二 人

右

証可幸 倭二人 鼓可幸 倭二人 襦可幸 倭一人

右

証可幸 倭二人 鼓可幸 倭二人 襦可幸 倭一人

右 奉 以上二人 倭二人 岩 微 山 岳 倭 若 馬 杉 平 次 在 馬

九 番 蒲 沖 道 具

右 奉 以上二人 倭二人 祖 白 寬 勅 若 馬 如 友 助 三 郎

右 奉 以上二人 倭二人 注 吟 富 永 春 彦 郎 神 谷 信 實 郎

十 番

右 奉 以上二人 倭二人 林 上 板 橋 庄 三 郎 長 谷 川 九 三 郎

右

大 番 炉 可 上 人 灑 水 上 人 瓦 籠 上 上 人 二人

右

大香炉可上人 灌水^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

末^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

開^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

被^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

被^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

十番

普^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

十番

右^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

灌水^{上人}

鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

灌水^{上人}

鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

鉢^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

被^{上人} 鉢^{上人} 鉢^{上人}

右

紗籠二車 傍人 流 傍人

後 双 傍人

右

征可 傍人 鼓可 傍人 濡可 傍人

右

征可 傍人 鼓可 傍人 濡可 傍人

十三番 傍人 通具

大傘 傍人 朱傘 傍人 杖箱 二 傍人

曲祿 傍人 宗聲 與 本 号

大蓋 傍人 三 徑 上 人 右 國 府 一 本 上 人 一 人 左 行 院 一 本 上 人 一 人

右拂子 一 本 上 人 一 人

車 上 人 一 人 傍 人

小松 上 人 一 人 血 脈 上 人 一 人

車 上 人 一 人 傍 人

左 柱 杖 一 本 上 人 一 人

右 踏 拂 拵 幡 童 一 人

香 行 者 一 人

左 露 拂 拵 幡 童 一 人

執 綯 傍 人 執 綯 傍 人

執 蓋 侍 十 人 右 澳 侍 十 人 左 澳 侍 十 人

執調俗人

右多引上人一人

大番炉可上人一人

執調俗人

十四番杖

右多引上人一人

大番炉可上人一人

右

瀧水上人

末段一本俗人

紗籠一本俗人

右

瀧水上人

開卷一本俗人

紗籠一本俗人

右

幡丸流俗人

波一双寺信二人

証寺信一人

右

幡丸流俗人

後一双寺信二人

証寺信一人

右

鼓寺信可

櫛寺信可

右

鼓寺信可

櫛寺信可

十六番 卍間供大傘

長寺寺信二人
長寺寺信二人

右

大番炉可

花籠 上人十二人

右

大番炉可

花籠 上人十二人

右大番炉一

上人一人

御位牌 御膳

右大香炉一 上人一人

苦網

御金籠

於家

天蓋

執蓋

白帳 十人

苦網

執網

白帳二人

上人沙供

白輿

今夜

宗源院殿御法事之儀之親王掾御門下
坊上之御経年納之付使志者其版一重元之儀

酒井雅樂改忠世宗小御之是也中波一則

彼宅小御之其版汗願以

諸家之御坊上守小御系一御経之御

十月十三日

申宮白皇子誕生

同日御法政房

後方之儀之御法政房御法政房
御法政房御法政房御法政房

公之御

同十九日御景之御御通

是日令地院御方小御之奉書を給ふ是也御景之

同日 白皇子御誕生之御景之御

勅使を食忍は是日肥後侍従忠茂如蒙肥後も
願國の代密相を執り是日依る書と預り
是月 皇子降誕に依り後河大納言忠長は
嘉祿の使として松平因幡守忠長たむらひ頼上京次
後に位下り叙するものなり

勅許を以てしと長を拜退す

三月廿日仙卷申納言正宗松平侍右居字執り

御内書とて宗小納言

同七日 作出とて宗

定

一 絹袖手本

き反付て大工祿少三丈許大をき大守

一 布本絹手本

き反付大工のくちにて三丈に大はき大守

右織物のす人ぬ御定の上長も不足は絹袖

布本絹賣りぬわてい來年四月廿日より見在

ゆりのこれしきや

寛永三年癸亥二月七日

同十二日太皇太后藏正次奉立に十一歳

同十三日仙卷申納言正宗迄別録大納言宗依て

御内書をとらつる

同廿日と津守相忠に
松平蠟燭子六百挺を献上す
依く御内書をとらつる

同廿二日薩摩守中納言久
松平亮久英六久自と献上す
是れ依く御内書をとらつる

同廿四日織田守常直常直の鶴を献上す
御内書をとらつる

同廿六日薩摩守中納言久願園の密柑を献上す
是れ依く御内書をとらつる

是月八日保徳保徳任保徳位下保徳叙加賀守保徳任

是月柳原宗清正成位下人の正成元正門四郎後

是冬多右左衛門忠政忠政位下忠政叙忠政位下

是冬酒井宮内守忠勝忠勝位下忠勝叙忠勝位下

是年松平中納言重則重則位下重則叙重則位下

内膳守任位下任位下叙任位下位下

是年永井信濃守尚政尚政位下尚政叙尚政位下

下総國古河城米地七万石及自分の領地二万石統く

九万石と給ふ

是年冬右左衛門忠政忠政位下忠政叙忠政位下

加賜せらる

是年小室系重和丸長次信忠子忠綱男播磨龍野城
食邑二万石位

是年内及任領主忠重上北國信守於赤地二万石位

是年小室重和復志秋上別領田原赤地に千石加賜せしは

田原赤地二万石位領主松平伊豆忠信等と同しは是年此

小室重和成是年堀田忠信等二盛作於赤地を加賜しは

田原赤地二万石位領主同率津根指田也二盛小室等

是年松平丹後守重忠松平丹後守重忠の子羽上守城也

是年松平丹後守重忠は是年池田守力長治赤地食邑千石

加賜せしは是年松平忠房守重成赤書院書の祖次

少室重和

是年内及赤地信廣赤書院書の祖次成堀田

守重和は赤地信廣赤書院書の祖次成堀田

是年松平使者是年松平使者是年安部守高也

公の 公命を奉るに再相別小田原小部

彼次を 公御居赤地赤地赤地赤地赤地赤地赤地

是年小室重和復志秋上別領田原赤地に千石加賜せしは

田原赤地二万石位領主松平伊豆忠信等と同しは是年此

小室重和成是年堀田忠信等二盛作於赤地を加賜しは

田原赤地二万石位領主同率津根指田也二盛小室等

是年松平丹後守重忠は是年池田守力長治赤地食邑千石

加賜せしは是年松平忠房守重成赤書院書の祖次

支那系諸侯賢作を塚東宮院 堀市山村里
公の命を奉る

將軍家小守仁吉 古今小依て元祿元年より以後小守と興承実也
志昂初孫の間より將軍家出で忠昂の後承也

河内屋与左衛門信俊 平氏武田也
之座信實男 家紋白と其子之胎

信雄 後教系也
任次 濱之隠居以每井大分 後能也
義政と云ふ

支那系内治の時京原小守と初

公 將軍家小守道久時小

支那系中馬と堀山堀田若狭と一継願

依之隠居以一継願也公之百石殿内又十

百石殿と堀子之社小浦小濱と一子之百石と

一継之隠居料と以一継平後之子百石と次男

権在處と堀山

是年所社備中も正次

古今小守と大坂の城代と也。酒井惟業の忠世

七井大炊利勝

支那系の 伯命を述ぐと今度大坂の常清

江 伴分小守と加賜之方石田願等て八万石を

給い侍給とに今又一方在札軍後とて大坂の

城と守給へし又外小七百石人の月俸と給給

是年八月一日正次大坂小守と城と守給

1. 關於... 2. 關於... 3. 關於... 4. 關於... 5. 關於... 6. 關於... 7. 關於... 8. 關於... 9. 關於... 10. 關於...

